ISO/TC331
生物多様性に関する取組等の紹介

2022年9月版
ISO/TC331日本国内審議委員会

目次

１．生物多様性を巡る現状

２．ISO/TC331について

３．ISO/TC331に対する我が国の対応

生物多様性を巡る現状①

生物多様性とは

地域に固有の自然があり、それぞれに特有のいきものがいること
そして、それぞれがつながっていること

1．「生物の恵み」に依存する人間の生存・生活

（※「ミレニアム生態系評価」における定義から）

① **生きものがうみだす大気と水**

② **暮らしの基礎**

③ **生きものと文化の多様性**
自然と共生してきた智恵と伝統、地域性豊かな風土　等

④ **自然に守られる私たちの暮らし**
森林による山地災害の被害の軽減　等

社会経済活動の基礎

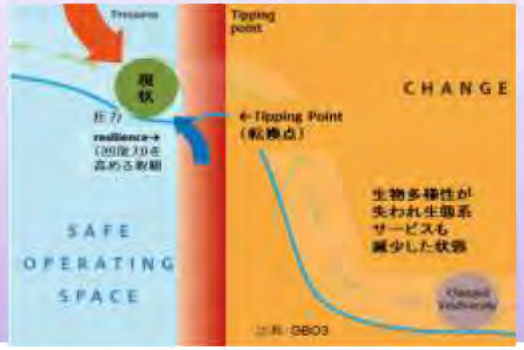
SDGs "wedding cake" illustration presented by Johan Rockström and Pavan Sukhdev
(株)インターリスク総研より資料提供

2．３つの多様性

（※生物多様性条約における定義から）

- **生態系の多様性：**様々な自然環境があること
  （干潟、サンゴ礁、森林、草原　など）
- **種の多様性：**さまざまな種類の生物が存在すること
  （地球上の推定生物種　500万～3000万種）
  （日本では既知の生物種数は9万種以上、分類されていないものも含めると30万種を超えると推定）
- **種内（遺伝子）の多様性：**同じ種の中に、個体ごとに違いがあること
  （例：ゲンジボタルの発光周期　　中部山岳地帯より西側：発光の周期は２秒、東側：４秒）

転換点を越えると劇的に変化する可能性



生物多様性を巡る現状②

生物多様性の４つの危機
（「生物多様性国家戦略2012-2020」）

①開発など人間活動による危機

森林伐採、乱獲など人が引き起こす負の要因による影響

熱帯雨林の破壊

②自然に対する働きかけの縮小による危機

人手によって維持されてきた里地里山の管理不足、鳥獣による被害の深刻化

耕作放棄、里山放棄

③人間により持ち込まれたものによる危機

外来種、化学物質など人間により外部から持ち込まれたものによる影響

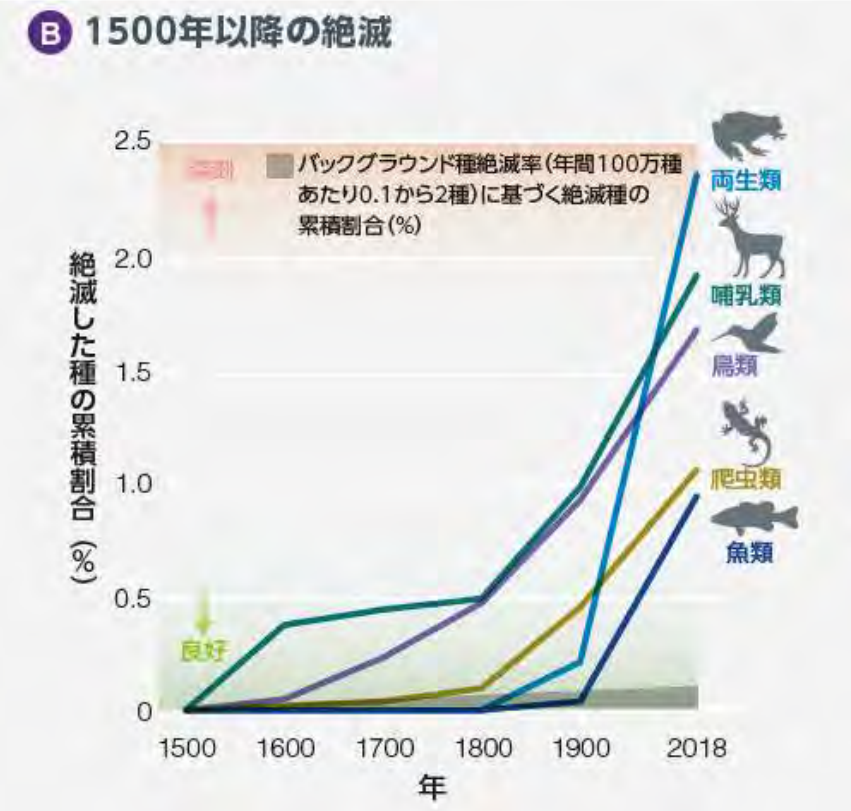
④地球環境の変化による危機

地球温暖化、巨大台風の頻度の増加などの気候変動など地球環境の変化による影響

生物多様性を巡る現状③

世界の生物多様性の現状（IPBES報告書2019）

- 種の絶滅速度は、過去1000万年間の平均の少なくとも数十倍から数百倍で、さらに加速。
- 絶滅速度は過去100年間で急上昇
- 地球上に590 万種いると推定されている陸上生物のおよそ9%（約50 万種）の種は、生息地の再生なしには今後数10 年の間に絶滅する可能性がある



IPBES地球規模評価報告書より

第６の大量絶滅期とも言われる。

生物多様性を巡る現状④

生物多様性とビジネスとの関わり
（生物多様性民間参画ガイドライン（第２版））

事業者に期待される役割は大きい

特に、事業者はその活動を通じて国内外の生物多様性と関わり、また、製品やサービスを通じて消費者である一般市民と生物多様性とのかかわりに関与していることから、社会の一員として重要な役割を担っているといえます。

既に生物多様性に関する取組を進めている企業も増えています。

ライフサイクル

原材料調達（再生可能資源・鉱物資源）／輸送／設計、製造、組立／輸送／販売／使用・消費／回収・リサイクル

業種

農業・林業 水産業・鉱業

輸送業・製造業・卸売業・小売業・消費者・廃棄物業 等

電気・ガス・水道・不動産業・建設業・金融業・医療福祉業・サービス業 等

負荷

- 乱獲・過剰消費：乱獲や過剰消費による種の絶滅や生態系サービスの修復困難な劣化など
- 外来種の移入：在来種への圧迫、本来の生態系の破壊、遺伝子の撹乱など
- 土地利用：森林伐採や土地改変による生息環境の変化や生息地の分断・消失など
- 汚染：土壌汚染、大気汚染、水質汚染等による生息環境の悪化など
- 気候変動：気候変動による生息環境の劣化・大規模な絶滅など

貢献

- 環境創出：生産現場での生息環境の創出や植林・間伐を通じた水源や山林の保全など
- 技術開発：AI・ICTの活用や自社技術の応用など保全に貢献する新技術や製造の開発など
- 環境教育：環境認証商品の取り扱いやそれらの広報による消費者への啓発など

出典）「生物多様性ハンドブック」（2009,JBIB）を参考に一部加筆

ISO／TC331について①

ISOでの専門委員会設置

- 2020年2月
  フランス規格協会より、生物多様性に関する新規TC※設立の提案
- 2020年8月
  新TC（TC331、幹事国：フランス)が設立

※TC（Technical Committee（専門委員会））：国際規格等の開発を議論する会議体

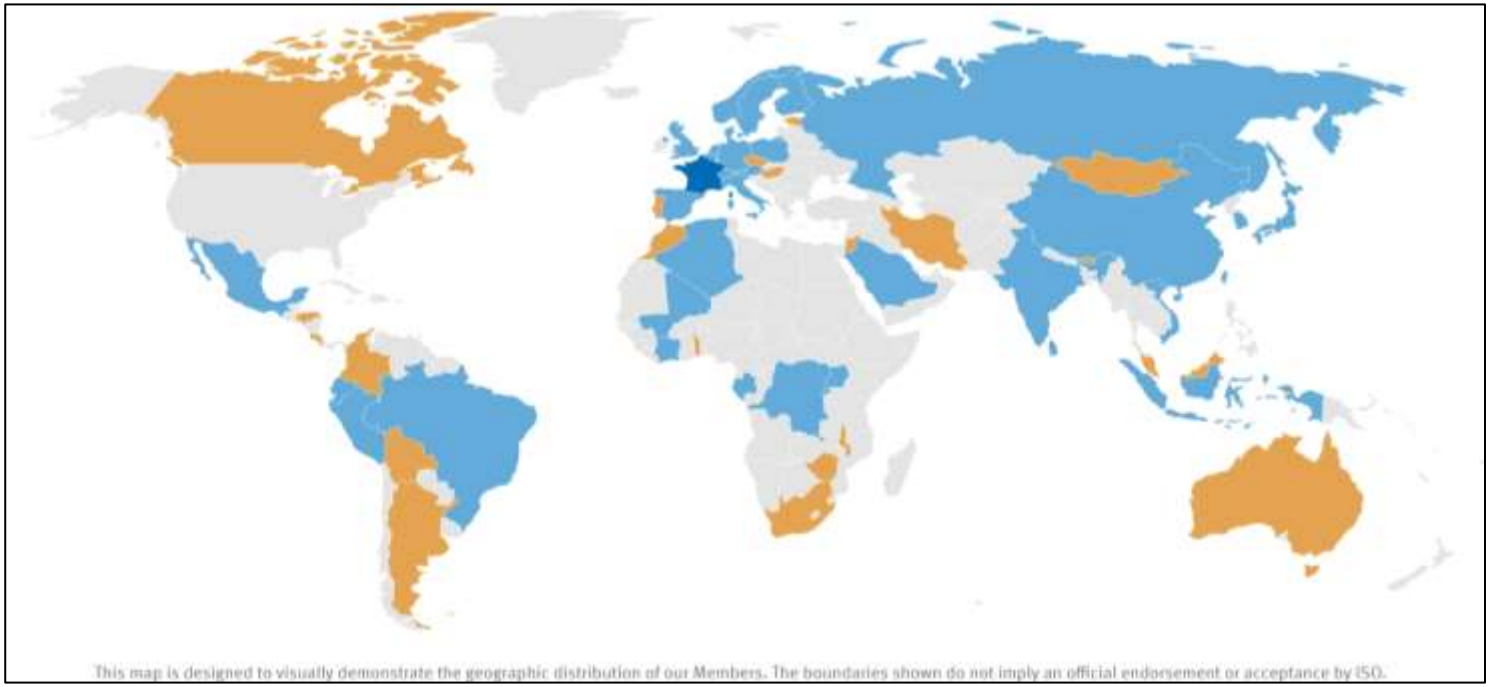
【ISO/TC331「生物多様性」のスコープ（概要）】

すべての組織が持続可能な開発に貢献することを促進するための原則、枠組み、要求事項、ガイダンス及びサポートツールを開発するための生物多様性分野の標準化

- 2021年6月28日～7月2日
  TC331第1回国際委員会Plenary会合（バーチャル）開催
- 2022年4月4日～8日
  TC331第2回国際委員会Plenary会合（バーチャル）開催
- 2023年4月
  TC331第3回国際委員会Plenary会合（予定）

ISO／TC331について②

ISO／TC331の現在の参加国



（出所）ISO TC331ウェブサイトより

Ｐメンバー(Participating／参加メンバー、委員会内の票決案件への投票権有り）

３６ケ国（日本、フランス、英国、ドイツ、中国、ブラジルなど）

Ｏメンバー(Observing／オブザーバーメンバー、委員会内の票決案件への投票権無し）

２１ケ国

ISO／TC331について③

ISO／TC331の構成

TC331

幹事国：フランス
議長：Mr. Sylvain BOUCHERAND
幹事：Ms. Caroline Lhuillier
Pメンバー(正規参加メンバー)　：36ケ国
Oメンバー(オブザーバーメンバー)　：21ケ国

リエゾン

TC 190 地盤環境
TC 322 持続可能な金融
IUCN、PEFC、ECOS

議長諮問グループ CAG（Chair's Advisory Group）

WG/AHG	WG1	AHG2（今後WG2へ移行予定）	AHG3（今後WG3へ移行予定）	WG4
議題	**Terminology**	**Measurement, data, monitoring and assessment**	**Protection、conservation and restoration**	**Organization, strategies and sustainable use**
主査	**スウェーデン**	**中国**	**インド**	**スペイン**
参加国	15ケ国	14ケ国	15ケ国	13ケ国
提案例	中国 “ISO/NP TS 13208-1 Biodiversity Vocabulary – Part 1: General terms”	英国 “Process for designing and implementing Biodiversity Net Gain (BNG)”	ー	フランス “Biodiversity – Strategic and operational approach for organizations - Requirements and guidelines”

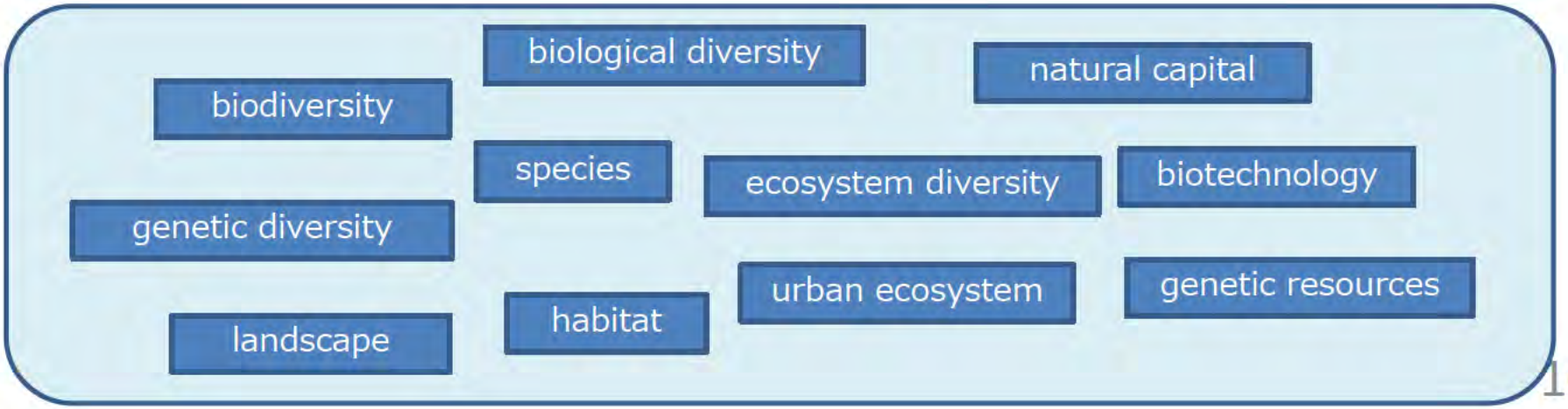
WG：ワーキンググループ
AHG：アドホックグループ

ISO／TC331について④

WG１の概要

- 主査：スウェーデン
- タイトル：用語（Terminology）
- 活動範囲：
  - ・TC331を進める上で必要となる生物多様性に関する言葉や概念の定義を行う。
  - ・既存の国際的な用語と標準の尊重
  - ・国際機関や会議の枠組みの尊重：(e.g. CBD, IUCN, IPBES, Cartagena Protocol, Nagoya　Protocol, CITES, SER, FAO, UNEP)及び既存のISO標準
  - ・新規用語及び新規定義の検討
- プロジェクト例

○Vocabulary（中国提案）TS 13208-1
"Biodiversity Vocabulary – Part 1: General terms"の開発



ISO／TC331について⑤

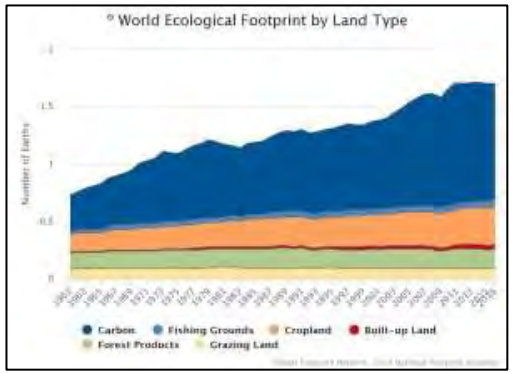
AHG2/WG２の概要

■ 主査：中国
■ タイトル：測定・データ・モニタリング・評価
■ 活動範囲：
・影響評価、ライフサイクル評価と報告を含む統合的評価のためのベースライン、指標の補強と強化のため、さらに生物多様性に関する管理の効率化のための、TC331の枠組みにおける生物多様性の測定・データ・モニタリング・評価における標準化
・生物レベル及び遺伝子レベルを含む生物多様性を、国外、国内、地域的、保護地域的、及びその他の効果的な地域ベースの保全措置(OECM)を含む空間スケールを対象とする
■ プロジェクト例
○ “Process for designing and implementing Biodiversity Net Gain (BNG)”（英国提案）

委員会として想定される「測定・評価例」と「指標例」

測定・評価例：日本の消費が世界各国で種を絶滅の危機にさらしている場所のマッピング

出典：金本他、Identifying the Species Threat Hotspots from Global Supply Chains、Nature Ecology & Evolution　2017



指標例：世界のエコロジカルフットプリント

出典：GPN　Data、World Ecological　Footprint by Land Type、2020

ISO／TC331について⑥

AHG3/WG３の概要

■ 主査：インド
■ タイトル：保護・保全・回復
■ 活動範囲：
・いろいろなタイプの陸域及び水域生態系における保護、保全、回復における標準化
・この作業には、生物多様性と生態系サービスに関する政府間科学政策プラットフォーム(IPBES)によって定義された利益を追求するための原則、枠組み、要件、ガイダンス、および支援ツールの開発が含まれまを含む。
・これらの利点は、次の 3 つの大きなクラスに分類される。
- 社会のための自然:人々/生態系の財とサービスへの自然の利益
- 自然のための自然:自然の本質的な価値
- 文化としての自然:人間の幸福

■ プロジェクト例
現状では提案なし。一方で、今後、WG3へ提案される可能性のある案件としてWWFの参加している Save Green Projectからの“ecological corridors / connectivity”に関する紹介がなされている。

ISO／TC331について⑦

WG４の概要

■ 主査：スペイン
■ タイトル：組織・戦略・持続可能な利用
■ 活動範囲：
・生物多様性の持続可能な使用に向けた組織及びその戦略をサポートすること
・政策、目標設定、行動計画、情報開示をサポートするための、ガイドライン、原則、実施の開発を含む
・フォーカス領域
- 他の既存のISO標準との整合及び他のTC331のWGと協調
- 金融を含む組織の生物多様性への影響と依存、さらにリスクと機会の広い視点
- 生態系サービスによる利益と生物多様性の持つ価値
- ダブルマテリアリティの考え方
- バリューチェーン、バリューネットワーク、直接影響と間接影響/依存、上流と下流
- 生態系サービス及び生物多様性による社会的価値
■ プロジェクト例
①Biodiversity – Strategic and operational approach for organizations - Requirements and guidelines （フランス提案）
②Guide for the characterization of products derived from native species （ペルー提案）
③Biodiversity and raw material （ドイツ提案）
④Biodiversity and the food sector （ドイツ提案）

ISO／TC331に対する我が国の対応①

- **2021年12月に国内審議委員会を設置（日本はPメンバーに登録）**
- **2022年2月に第一回国内審議委員会を開催**

TC331国内審議委員会の主な役割

1. TC331（生物多様性）に関する国際的検討項目（規格案策定、WGの設置、他の委員会との連携など）に対する必要な国内審議を行い、日本の意見をまとめる。
2. 各国から提案されている案件について、賛成・反対・棄権およびコメント案などの日本の意思を決定する。
3. TC331へ必要な日本からの新規提案（規格案、WG設置案、他の委員会との連携案など）について審議し、提案の要否等を決定する。
4. 適正な審議を行うため、関係するステークホルダーの意見を反映させ、日本全体の意見としてまとめる。
5. 審議などに必要な専門家による情報を収集し、共有する。
6. 各分科会からの報告を受け、対応する。

役割	メンバー
委員長	星野一昭（日本国際湿地保全連合　会長）
構成員	委員：学識経験者 オブザーバー：業界団体、生物多様性イニシアチブ、企業関係者、関係省庁
関係者	環境省、JISC（日本産業標準調査会）
事務局	IGES（地球環境戦略研究機関）,JSA（日本規格協会）

ISO／TC331に対する我が国の対応②

生物多様性国際規格が我が国や世界に与える影響

【環境面での影響】

○生物多様性条約に基づく世界目標（ポスト2020生物多様性枠組：GBF）やその他国際枠組とよく調整され、実効的な規格となれば、我が国及び世界が共通仕様や共通の物差し・基準で連携して取り組みやすくなり、生物多様性保全・ネイチャーポジティブ実現に大きく貢献する。

▲一方で、GBF等と紐付かず、形式的な規格となれば、参加は限られ、仕様や物差しは細分化し、また、グリーンウォッシュを招き、かえって国内外の生物多様性保全の取り組みを阻害する。

【経済面での影響】

○共通仕様により、より大きな市場が登場するとともに、イコールフッティングにより、生物多様性に配慮した事業者が競争力を持ち、また、あらゆる事業者における持続可能な経営にも貢献する。

▲産業の実態に即さない規格となれば、規格適応への費用が増大し、また、規格によって生まれる新たなビジネスに対する競争力を失うリスクがある。

●官民のオールジャパンでの積極的なルールメイクへの対応が不可欠

●関係省庁や関係業界を巻き込み、ＴＣ３３１の進展を踏まえて国内体制を順次強化。

ISO／TC331に対する我が国の対応③

国内事務局について

ISO/TC331（生物多様性）国内審議委員会事務局

地球環境戦略研究機関　（IGES）

日本規格協会　（JSA）

＊ 2022年度事業において、IGESとJSAは共同で事務局運営を行っています。

＊ 2022年度事業は環境省生物多様性主流化室の委託事業により行われています。

＊ 標準化活動全般については、JISC（日本産業標準調査会）の国際標準化Webサイトをご覧ください。

＊ 本資料は、環境省のWebサイトにも公開しています。